

本報告書（中間とりまとめ）では、特にSDGsへの貢献に向けた気候変動分野の取組、地球観測・予測データに関するデータバリューチェーンに関する検討を重視。実施方針フォローアップ報告書の実施方針の今後の方向（4項目）に基づき、今後の施策について提言を行う。

地球観測・予測データによるSDGsへの貢献とデータプラットフォームの現状

<SDGsへの活用事例及び可能性>

地上観測データ・・・河川・湖沼の水質監視、温室効果ガスの排出量・吸収量のデータ創出

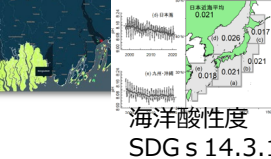
海洋観測データ・・・海洋酸性化の監視、栄養塩供給メカニズムの解明、海洋汚染防止、海洋環境の監視

気候変動予測データ・・・国交省治水政策への活用、気候変動財務リスク評価

衛星観測データ・・・熱帯林保全管理、洪水被害軽減、SDGs指標のモニタリング、火山監視・地震被害把握、大気汚染物質監視、温室効果ガス濃度・森林分布の推移観測、気候ファイナンスのための情報提供など

衛星観測データ・・・熱帯林保全管理、洪水被害軽減、SDGs指標のモニタリング、火山監視・地震被害把握、大気汚染物質監視、温室効果ガス濃度・森林分布の推移観測、気候ファイナンスのための情報提供など

マングローブマップ SDGs 6.6.1



<データプラットフォームの国内外の動向>

- 米国：NOAA Big Data Program
- 欧州：Copernicus Programme
- 豪州：Open Data Cube
- 国内：DIAS、Tellus、A-PLAT など

課題と方向

今後の施策への提言

1. 地球観測情報をデータ利活用の現場に繋ぐ取組の強化

- 【課題】**
- エンドユーザーは、地球観測・予測データをどのようにSDGs実現のために活用できるのか認知できていない
 - データバリューチェーンが形成できていない
 - 地球観測・予測分野の研究者だけではエンドユーザーが必要とするインテリジェンスは生み出せない
- 【方向】**
- 地球観測・予測データがSDGsに貢献できるサービス（現場）の特定
 - インテリジェンスを提供する「主体」「技術」「サービス」の創出・形成
 - サービス提供分野の研究者等が参画した技術開発

2. 課題解決を志向した地球観測インフラの長期性・継続性の確保

- 【課題】**
- 利用者ニーズが多様であり観測継続の評価・意思決定が難しい
 - 観測の開始・終了を評価する主体（会議体）が多く存在し、コミュニケーションが限定的
 - データ断絶は観測データの価値・信頼性を著しく低下させる
- 【方向】**
- 長期性・継続性を確保するための動機付けと効率的なガバナンスが必要
 - 観測が長期継続される予見性を示した上で、動機付けとして、Future Earth などSDGs関連の取組等を活用

3. 予測情報の高精度化

- 【課題】**
- 気候予測情報には依然として大きな不確実性存在
 - 不確実性の存在を前提に、気候予測情報を利活用したい者が存在
 - 不確実性に関する利用者の理解は必ずしも十分ではない
- 【方向】**
- 不確実性の低減に向けた研究開発が必要
 - 気候予測情報の不確実性に関する利用者の理解向上が必要

4. 共通的・基盤的な取組の推進とイノベーションへの貢献

- 【課題】**
- 利用したいデータが国内外のサイト毎に分散し、データへのアクセスが煩雑
 - データの利活用の仕組みが複雑
 - データをどのように活用すればよいか分からない
- 【方向】**
- 利用者が利用しやすいプラットフォームの形成やオープンデータ化が必要
 - プラットフォームの利用者と運営者がアプリケーションとプラットフォームを共同開発する仕掛けが必要
 - 児童・生徒や市民への地球観測リテラシー向上に向けた取組の推進

気候サービス産業の形成

気候変動インテリジェンスを生み出す技術開発

気候レジリエンスに向けたコミュニティ形成

地球観測・予測重点課題の設定

地球観測連携拠点の再設定

関係会議との連携強化

SDGs関連の取組・国際プロジェクトの戦略的活用

地球観測データの活用

AI等を活用した予測データの創出

データ利活用に関する情報提供（事例集・ガイドライン）

産官学連携プロジェクトを活用したプラットフォーム形成

データ利活用に向けた技術開発

オープンデータ化の促進・利用目的制限の見直し

小中高生向けコンテンツの提供

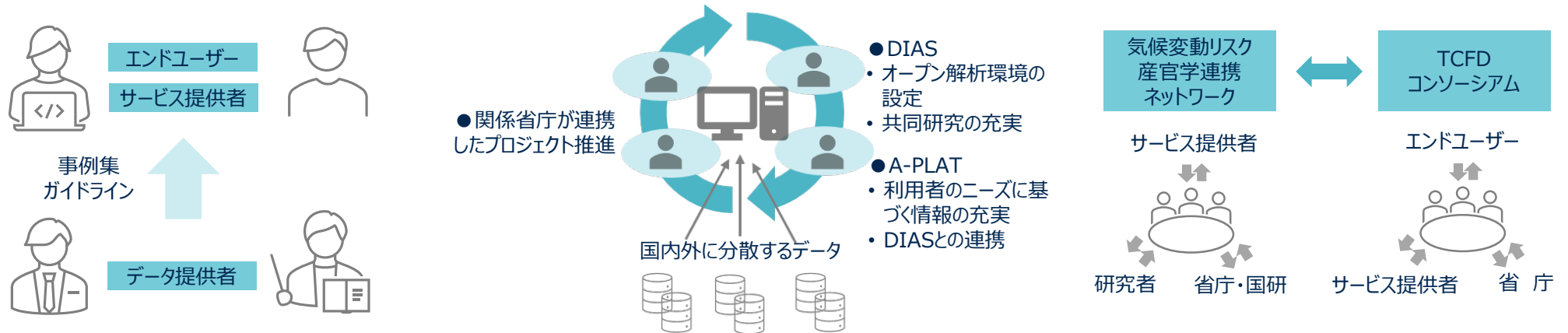
今後の施策への提言 <ポイント>

SDGsへの貢献



・ 気候サービス産業の形成

データバリューチェーンを形成



- データ利活用に関する情報提供
 - 気候予測データセット2022・解説書

- 気候変動インテリジェンスを生み出す技術開発
- データ利活用に向けた技術開発
- 産官学連携プロジェクトを活用したプラットフォーム形成

- 気候レジリエンスに向けたコミュニティ形成
コンソーシアム連携
 - 気候変動リスク産官学連携ネットワーク
 - TCFDコンソーシアム

・ 地球観測インフラの長期性・継続性の確保

・ 予測情報の高精度化

など